世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
Musashino University
武蔵野大学 学術機関リポジトリ
Musashino University Academic Institutional Repository

# 秋山駿蔵書整理の回想



| メタデータ | 言語: ja<br>出版者: 武蔵野大学武蔵野文学館<br>公開日: 2024-07-17<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 小松, 俊哉<br>メールアドレス:<br>所属: |
|---|---|
| URL | https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2000356 |

# 秋山駿蔵書整理の回想

小松　俊哉

私は文芸批評が、こんなに沢山の本を持つ仕事だとは考えていなかった。昭和三十年代団地の2DKは、夫婦二人の暮らしには充分な広さであると、と私は感じていたが（フランス人かだれかが、鶏小屋みたいと形容したそうだが）、本が増えはじめると、それはやがて荷物を満載した貨物車といった住居に変じた。

（「ああ、本よ、同人誌よ」『片耳の話』光芒社、二〇〇一）

上記は、生活空間の大部分を浸食する膨大な書籍について、こと同人誌の処分について秋山駿先生が語ったものです。現在、それらの蔵書の一部は武蔵野大学に寄贈され、また武蔵野キャンパス内紅雲台のむさし野文学館にびっしりと収蔵されています。

二〇一七年三月一五日に『秋山駿蔵書目録』を刊行し、はや七年近く経ちました。当時はまだむさし野文学館のウェブサイトはなく、蔵書を検索できるようなプラットフォームを保有していませんでした。『秋山駿蔵書目録』はその名の通り秋山駿先生の寄贈書より成り、エクセルデータで整理および管理が行われていたものをひとつの書籍の形に落とし込んだものが『秋山駿蔵書目録』です。

『目録』の内訳は、単行本六五八五点、文庫本五六一〇点、新書一二一一点、雑誌九六四点の計一四三七〇点になり、著者編者訳者名・署名・出版社名・出版年月日・注記を記載しました。注記とは「貴重書」という分類にあたるかどうかで判断されています。「貴重書」とは、寄贈された書籍内の折り目や書き込み、書簡などの有無で判断していますが、寄贈書の多くは「貴重書」として分類されるほど秋山駿先生の読書と思索の痕跡が色濃く残っていました。『目録』には情報の詳細を記載していませんが、ネイティブにあたるエクセルデータには「つまようじによる付箋多数あり」や「〇〇に関するメモあり」など、ひとつの書籍に対

して細かすぎるといえるほどの情報で溢れています。

二〇〇八年二月に蔵書整理が開始されてから、私をはじめ多くの学生や卒業生が作業スタッフとして蔵書整理に携わり、二〇一五年八月に分類不可能な貴重資料などを除くほぼすべての蔵書のデータ化を終えました。現存しない武蔵野校舎や、武蔵野キャンパス内の準備室、小平書庫など、作業場所を確保するために書籍を移動させ、場所を転々としながらの長い時間をかけた作業となりました。

寄贈書のデータベースを作成していくことは、旧蔵者である秋山駿先生を対象とした研究において、二次資料としての重要な意義があります。おおよそ、図書館等で作成される目録とは書誌情報システムとしての価値がありますが、旧蔵者の痕跡を余さず記載したデータはリッチな二次資料になったといえるでしょう。また、作業スタッフの視点からいえば、他者の読書に伴う思索を追いかける過程自体に、絶え間なく文学と向き合う時間が作られたように思います。加えて、ウェブサイトが構築され検索システムが運用されたことで、インフォメーションとしても重要なものとなりました。そしてこれらの多方面への活動の積み重ねで、価値ある寄贈書を開架資料としてむさし野文学館館内で保管することができています。

冒頭に引用した文章の中では、処分という行為に抵抗しつつ文芸同人誌を捨てる「惜別の思い」が語られています。むさし野文学館に保管されている書籍は一部ではありますが、確実に未来の読者に対し残されています。